

サイエンスアカデミー開催

- ◇期 日:10月21日(土)・28日(土) 10:00~12:00
- ◇場 所:本校会議室・人文社会教室
- ◇参加者:県内の小学5・6年生28人、中学生1・2年生9人、SS 数学部員
- ◇指導者:本校 SS 数学部顧問 巖寺先生・島竹先生

サイエンスアカデミーとは、SSH 指定校の本校が理科や算数・数学に興味を持つ県内の小中学生にむけて開催している講座で、高校生が理科や数学・算数の発展的内容を小中学生に直接教えたり、ともに考えたりすることで、小中学生の科学に対する関心を高め、互いの科学的思考力・創造力を伸ばし、理解をより深めてもらうことを目的に実施しています。今回は算数と数学に興味関心がある児童・生徒を対象に実施しました。

小学生対象の初回の講座は空間図形をテーマにしました。A4 用紙を使って折りたたむことのできる正多面体を作り、面や辺、頂点などの数を数えました。小学生は図画工作のような感覚で、周りの人と協力し合いながら多面体を楽しそうにつくっていました。第2回の講座では、割合のモンティ・ホール問題を取り上げ、実際に実験を行って確率の変化を調べました。SS 数学部員は、やり方が分からず困っている小学生にヒントを教えたり、考え方を説明したりしました。



中学生対象の数学の講座は、数列をテーマに行いました。数の並びに隠れた法則を見つけ出し、空欄に当てはまる数や数列の和を考えました。中学生は4人ほどのグループに分かれ、メンバー同士で協力し合いながら問題を考えていきました。SS 数学部員は各グループに1人ずつ入り、話し合いを促す役割を担いましたが、中学生が自主的にアイデアを共有しあう場面が多くみられました。



参加していた児童・生徒の多くが、私たち高校生とは異なる切り口で問題をとらえていたためか、まったく思いもよらなかった別解も出され、驚かされることも多くありました。高校生になり、ある程度固定化された解き方をしていた問題にもさまざまな考え方があり、柔軟に考えることができるということに気づかされた2日間でした。